第6回

高林白牛口二の謡を聴く会

第一部

対談　近衛忠大　高林白牛口二

第二部

野宮　高林白牛口二

玉之段　高林昌司

笠之段　高林白牛口二　大倉慶乃助

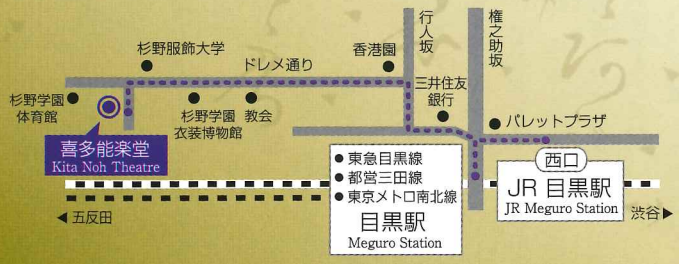
道明寺　高林呻二

主催　高吟会

平成30年 12月7日(金) 午後6時始　十四世喜多六平太記念能楽堂（喜多能楽堂）

● 入場料（全席自由席）￥4,000均一

※当日、野宮の謡本を販売いたします。



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9　TEL：03-3491-8813

JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅下車徒歩7分

● お問合せ

※チケットはお電話、メール、ホームページからもご購入いただけます。

【高吟会】

E-mail：koginkai@ares.eonet.ne.jp

http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/

TEL：075-462-1490　FAX：075-463-3494

〒603-8354 京都市北区等持院西町15

【喜多能楽堂ホームページ チケット購入ページ】

http://kita-noh.com/ticket/

背景：わんや刊行謡本より抜粋

第八十回 喜多流涌泉能

平成三十年十二月七日（金）
午後五時三十分開場

動静以天地
視哉涌泉美　　鈿之翁

第一部　午後六時始

対談　　近衛 忠大
　　高林白牛口二

休憩（十五分）

第二部　午後七時始

一曲独吟　**野宮**　高林白牛口二

仕舞　**玉之段**　高林 昌司

一調　**笠之段**　高林白牛口二
　　大倉 慶乃助

仕舞　**道明寺**　高林 呻二

附祝言

終了予定　午後八時四十分

主催　喜多流　高吟会

箱庭文化と「能」

高林白牛口二

「謡を聴く会」とは場違いな話ですが、日経スタイル（サイト版）のトヨタセンチュリー新型車についての対談の中にこんな言葉がありました。

●小沢コージ（自動車ジャーナリスト）　日本独自カルチャーの京都がこれだけ受けてるんだから、「走る京都」みたいなテイストで打って出てもいいような。

●田部正人（トヨタセンチュリー開発総括）　全く考えていませんね。

●小沢コージ　だからそこが面白いなと。良い意味での自然な日本の箱庭文化を感じます。京都や着物の文化もそうだけど、あえて自分の中に閉じこもり、自分たちの快楽であり、美意識を追求する面がある。

この対談の言葉の中から、私は自分の歩んできた道の裏付けを、見出しました。そして私の考えが間違っていなかった事を、証明して呉れていると思いました。

地球の中に京都という特別な場所があり、その中に生きている私がいます。この小沢さんの云う「良い意味での自然な日本の箱庭文化」という言葉に、非常に共感を覚えました。「あえて自分の中に閉じこもり、自分たちの快楽であり、美意識を追求する面がある。」この心の表現は私の「能」に対する感性、舞台上の表現の根拠と一致するものです。

私は「能」とこの「箱庭文化」と共通点があると思います。それは「能面」を使用することにあります。「能面」は、生活機能を持たない無機物です。「能面」それ自体には感情や表情を伴う生命力はありません。でも舞台の上では生きています。感情も表情も存在するのです。それは「能面」を自分の顔として扱っている者の、肉体の一部だからなのです。「能面」を自分の顔として着した時から、自分しか存在しない「箱庭」に籠もることが出来るのです。この「能面」に拠って作り出す独自の世界が、この「箱庭文化」と共通した世界です。「箱庭」は全く人工的に作られた物体です。しかし、その中には自然が、自然体以上に自然を作り出しています。「能」の舞台も「箱庭」の一つなのです。

「能」ではシテが、自分の一部として無機物の「能面」を駆使して舞台を、場面を展開させます。「能面」は自分の顔です。扮装のために被っている物ではありません。「能面」を自分の肉体の顔に固定して、自分自身の顔として、その顔に生命力を与える事によって「能」は成立します。即ち無機物の箱庭に、自然の生命が宿っているのと同じ事です。

「能」の最大の特徴は、この「能面」にあります。「能面」を、自分の顔として扱えるか否かが、その「能」の出来不出来、即ち役者の力量を判断する基準となります。

今回もどうぞ謡本をご覧になってお聴き下さい。

次回予告

平成三十一年四月十三日（土）午後一時始　能　実盛　高林 呻二
第八十一回 涌泉能 於 京都 大江能楽堂　独吟　隅田川　高林白牛口二
　　能　雷電　高林 昌司

許可無く写真撮影・録音・録画は堅くお断りいたします。
携帯電話など音の出る電子機器は予めお切り下さい。